

毎月一週十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）



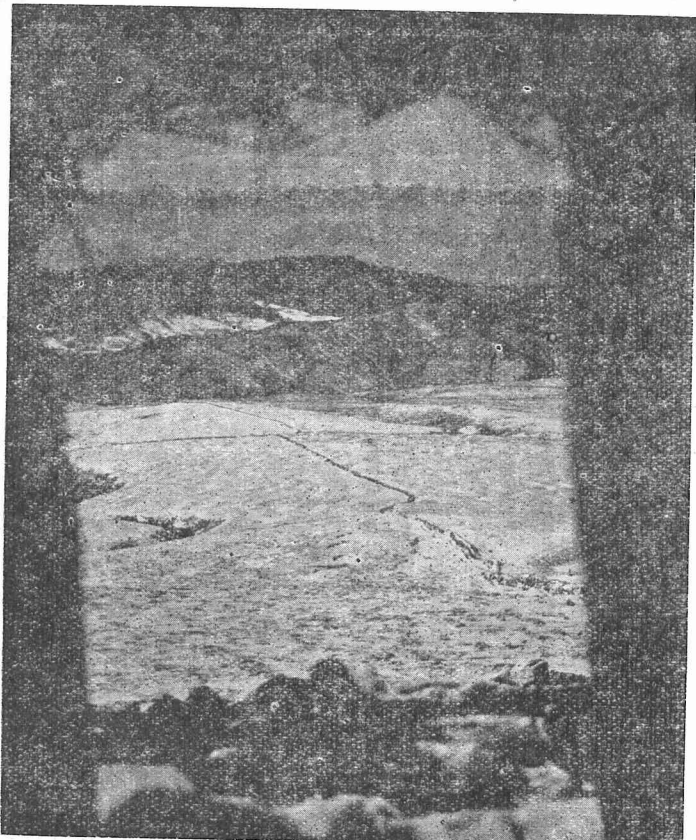
和清山香 校學市田野 會門專絲上 所原市曲市 刷印原市田 所刷印野中

年頭之辭

國民精神總動員下の我等の覺悟

針塚長太郎

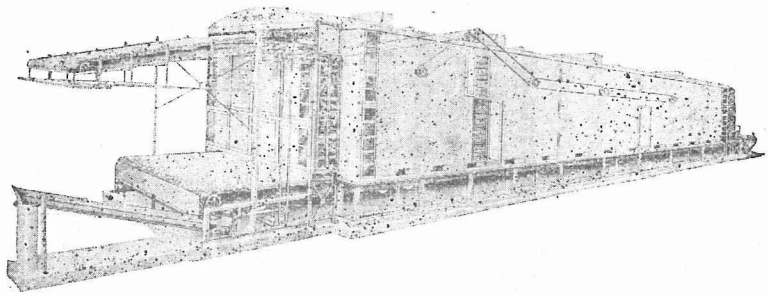
國民精神總動員發せられて既に六ヶ月  
國民全部は今事變の重大性を確認して、  
第一に尊嚴にして萬邦無比なる我國體の  
本義を益々闡明し、敬神崇祖、義勇奉公  
の精神を振起し、舉國一致、盡忠報國、  
堅忍持久以て能く時艱を克服し、銃後の  
營ト、キ！場根子岳滑走路石室より展望  
（上田温電撮影）



言はねばならなかつた。今日こそ日本  
は世界強國の一として數へられるが、當  
時は人口六千萬、國費僅に二、三億に過  
ぎなかつた。露國の迫害は日に深  
を極め、遂に止まれずして敢然干戈を執  
つて輸贏を決せんとするに至つたのであ  
るから、陸海將士は勿論、國民の緊張と  
憂患は實に名狀すべからざるものがあつ  
た。幸に 陛下の御威威と、陸海軍の奮  
闘と天佑とによりて勝利を得るに至つた  
のであつた。併しながら之れを今回の事  
變に對比すれば未だ事は小と言はなけれ  
ばならぬ。今事變の名は支那事變と言ふ  
も、其の實は支那を支持するところの強  
大なる某々聯合力を敵として戦争である  
事は、已に識者の一般に認むるところで  
ある。其の背景とする一國ですら、之を  
屈服する事は實に容易の業ではない。蓋  
し我國としては有史以來の大國難と言は  
なければならぬ。乃ち國民は日露戦争に  
倍する大覺悟と大緊張心を以て、我國  
家國民の有する最大力を發揮し、一夫萬  
夫の勇を振ひ、經濟的には裸一貫に  
なる迄戦ふの決心を以て躍進せねば  
ならぬ。如此して初めて暴支腐惡の  
目的を達し、東洋の盟主として其の平  
和を確立し、延て世界人類の福祉を  
齎らすこととなり、我國建國以來の  
大理想たる八紘一宇の皇猷を實現し  
得るのである。國民は宜しく我國の  
使命は此の如く重大にして、又崇嚴  
無比なる聖業の遂行を負擔せる世界  
最優の民族責任を有することを的確  
に認識する事が肝要である。

今や列國民は滔々として、其の國  
是も其の生活理想も、皆之れ名利と  
物慾の奴隸たらざるはなく、恰も鼻  
鷲の肉塊を争ふが如く、信なく、義  
なく、人道なく、信仰なく、自我の  
利益の爲めには總てを犠牲とし、唯  
之れ默慾場裡に狂躍亂舞あるのみで

新年 謹賀  
現代乾繭機界ノ王座  
大和式自動輸送乾繭機



二五九八年代表型

【各種型錄贈呈】

製作發賣元  
株式會社  
大和三光商會

東京京橋區京橋三丁目二番地  
電話京橋(56)五三二〇番

營業課目  
特許大和式自動輸送乾繭機  
特許大和式自動人絹乾燥機  
特許帶川三光式乾燥機  
特許やまこ式ホ  
特許サンコー式濾過淨水装置  
特許サンコー式廢湯吸器  
特許サンコー式高壓ポンプ  
特許サンコー式

あつて、慈愛や正義や人道は今や全世界  
に地を拂はんとし、王道樂土は只單に辭  
典に其語を存するのみに至らんとする現  
勢ではないか。是に於て唯一日本ありて  
世界人類の爲めに一肌脱がんとするは之  
れ我が華國以來の皇猷に據るものとして  
今次の戦争は之れが實行の發程である。  
何ぞ其の目的の崇高偉大にして其の意氣  
の壯なる。若し今次の目的貫徹せんか、  
今後十年後の日本は國旗の日の丸と共に  
慈光全宇宙に赫々たるに至るや疑ふべか  
らず。之れ國民の非常の決心を要する所  
以にして又國民總動員の實行せらるゝ所  
以である。  
總動員下に於て實行すべき事項は、官  
府に於て已に詳細に例示せられ、茲に贅

關頭閑語

篤

之

生死の關頭、尙ほ閑語あり。蟄居數十日の僕にも書き散らす閑語があると云ふわけさ。日暇に托かせて座右の藏書を漁りつくす。

初めて讀んだものもあり、再三再四讀みこなししたものもある。併しそれを讀む折々に、内容が變つた様に思はれるのが不思議だ。昔は昔の儘であるが、讀む自分の心地、態度がちがふに従つてその書の内容が變つた様に感ぜられるのである。

會々北條九代記を讀む。保元物語、平治物語などに比し、作としては劣る様に思はれるが、その内容が現代支那にそつくりな處に興味を覺えた。その序文が訓ふる處、印ち以て今日に及ぼすべきもの多々あるを憶ふ。左に轉記するから一讀して貰ひたい。

夫文武兩道。天下治世之經緯。國家安民之綱紀也。亂時則良將建武威。而靜四海於太平之地。治世則明君修道德。而浴萬民於淳化之澤矣。斯故文武如兩輪。又譬二翼。若缺一。則謬理政之基。而損敗自淺至深焉。蓋君暗而親倭信議極奢。臣偷其權。勢好邪濫。上清廉廢下。流言聞于外。憤恨生於內。禍必起乎齟齬之本。榮榮既炎矣。遂招干滅之患焉。茲以天下國家之興廢如運掌矣。庶幾復仁修德。本義謹深。正禮而行和也。道德即契天理。庶品仰其惠。明時歸日新。六合雲治。四海浪靜。錯宗門戶昌榮。聲享安泰之佳運。以致萬全。以流永代言爾。

古川柳を繙く。實に面白い。明和、安永、天明時代に秀句が多い。之れを意味して以て他山の石となすも可であらう。

明和時代 辨天をのけるとあとは片輪なり手の甲へ餅を受けるとる煤はらひ清盛の醫者ははだかて脈をとり生酔に安い分別貸してやり

『ウシ其通りおれが受合つたよ大丈夫』

協僧は類草盆でもほしく見え草鞋をはくと二足ふんで見る笑ひ止む迄は高座で汗をふき汝等は何を笑ふと隱居の尻

安永時代 夫とは向きをちがへて寝寝する將棋をば二番まけては金を借り洗足に嫁身袴へのむつかしきやせこけた死骸が有ると蹴取り

『伯夷叔齊首陽山に飯をとりて食す』よし原で武進勝利を得ざることを

天明時代

又文かそこに置けと光君小便所めんぼくもない人にあひみやこ人わづかな水で涼んでる『鴨川の夕涼み』

『太田道灌』 づぶ濡れに成つて歸ると歌書を買ひ

『正に受取申候也』 世の人情は昔も今も變らぬものなり。たゞ膚ざはりの好い樓の家と、樓み悪い世間との違ひのみだ。昔より今の世の中が露骨であると言ふだけだ。

漱石の坊ちやんを讀む。四國の土地を踏んで見ると尙更それが面白い。そこに著者の苦心が存して居る様に思はれる。或る土地へ住むことになつたら、その土地のことを書いた小説でも、古文書でも讀んで置くこと、そう言ふことは決して

徒勞では無い。封建時代の古い因習が土地に染みついて居るから面白い。十返舎九の藤栗毛もそうした意味を多分に持つるところに一讀の價値はある。

講話ところへ

千葉 高島 生

日照不足の桑は營養價値に乏しく、殊に糖分が不足して居るため、之を給與すれば空頭病の發生が多くなることを證明されました。そこで數多の桑品種中、島ノ内はその葉の中に糖分の含量が多いから、之を給與すれば空頭病の發生を豫防することが出来るといふので、長野縣では島ノ内を蠶桑とまで呼んで推奨して居ります。處がこの桑は早蠶に弱く、早天續きの晩秋蠶には却つて不結果を招くことがあります。或る養蠶家が早蠶時に島ノ内を用ひて失敗し『蠶桑ときいたのは幽靈桑の間違ひであつたか』と自らを疑つたと云ふ話を聞いたことがありますが、桑品種の良否もその年の氣象状態に依つて左右されるものであることを注意しなければなりません。

多收獲本位の桑園だけでは蠶作の安定を望むことが出来ませんから、種蠶用桑園を特設して健蠶本位の桑を種ようとするのであります。そこで縣は數年來獎勵金を交付して種蠶専用桑園の設置を奨励し來つたのであります。當業者はさして之を歓迎しないやうであります。之は果して何のためでせうか？ 甚だ迂闊千萬の事ながら、私は最近になつて漸くその理由が讀めたのであります。即ち一方に於て多收獲桑園を経営する場合、健蠶

本位の種蠶用桑園が必要となつて來るのだが、當業者の桑園には桑千貫繭獲らず式のものは一枚もなく、耕作桑園全部が種蠶用式のものだから、今更改めて種蠶用桑園を特設するの必要を認めないのであるまいかと。

賀屋大藏大臣は就任の當初その抱懷せる財政經濟の方針を示して『國際收支の適合、生産力の擴充、物資供給の調整』の三項目を挙げられました。之が世に謂ふ所の賀屋財政の三原則であります。私は茲にその内容を説明しようとするのであります。たいこれに就いて、養蠶經濟の三原則なるものを提示致したいのであります。曰く作柄の安定、曰く繭質の向上、曰く生産費の低下、この三つであります。

第一回蠶品種審査會 蠶品種審査會は其の第二回を十二月一日から農林大臣官邸に於て開催せられ、第一日は有馬會長外各委員關係官出席、午前十時半先づ會長挨拶の後細川蠶絲局長から議案に付説明あり。質疑應答、意見開陳の後十名の特別委員に附託された。特別委員會は午後一時半より開會審査に入り三時半散會。

第二日は午後一時より本會議を再開、委員長より特別委員會の經過報告あり左の如く決議を見たり。

決議 原蠶種管理法ニ依り政府ノ製造配付スヘキ原々種ノ品種及蠶種製造者ノ依ルヘキ原種ノ交配形式ハ前回蠶品種審査會ニ於テ決議シタルモノ、外左記ノ通トナスコト

記

一、原蠶種管理法第三條ノ規定ニ依り政府ノ製造配付スヘキ原々種ノ品種ハ左ノ八種トスルコト

金光、綾黃、那是金、那是白、滿月、分離白一號、改良新白、改良蠶白

二、原蠶種管理法第十一條ノ規定ニ依り蠶種製造者ノ依ルヘキ原種ノ交配形式ハ左ノ四形式トスルコト

春蠶 (金光) 那是金 (滿月) 改良新白 (綾黃) 那是白 (分離白一號) 改良蠶白 (荒木寄)

原蠶種管理法ニ依り政府ノ製造配付スヘキ原々種ノ品種及蠶種製造者ノ依ルヘキ原種ノ交配形式ハ前回蠶品種審査會ニ於テ決議シタルモノ、外左記ノ通トナスコト

一、原蠶種管理法第三條ノ規定ニ依り政府ノ製造配付スヘキ原々種ノ品種ハ左ノ八種トスルコト

金光、綾黃、那是金、那是白、滿月、分離白一號、改良新白、改良蠶白

二、原蠶種管理法第十一條ノ規定ニ依り蠶種製造者ノ依ルヘキ原種ノ交配形式ハ左ノ四形式トスルコト

春蠶 (金光) 那是金 (滿月) 改良新白 (綾黃) 那是白 (分離白一號) 改良蠶白 (荒木寄)

第一回蠶品種審査會

蠶品種審査會は其の第二回を十二月一日から農林大臣官邸に於て開催せられ、第一日は有馬會長外各委員關係官出席、午前十時半先づ會長挨拶の後細川蠶絲局長から議案に付説明あり。質疑應答、意見開陳の後十名の特別委員に附託された。特別委員會は午後一時半より開會審査に入り三時半散會。

第二日は午後一時より本會議を再開、委員長より特別委員會の經過報告あり左の如く決議を見たり。

決議 原蠶種管理法ニ依り政府ノ製造配付スヘキ原々種ノ品種及蠶種製造者ノ依ルヘキ原種ノ交配形式ハ前回蠶品種審査會ニ於テ決議シタルモノ、外左記ノ通トナスコト

記 一、原蠶種管理法第三條ノ規定ニ依り政府ノ製造配付スヘキ原々種ノ品種ハ左ノ八種トスルコト

金光、綾黃、那是金、那是白、滿月、分離白一號、改良新白、改良蠶白

二、原蠶種管理法第十一條ノ規定ニ依り蠶種製造者ノ依ルヘキ原種ノ交配形式ハ左ノ四形式トスルコト

春蠶 (金光) 那是金 (滿月) 改良新白 (綾黃) 那是白 (分離白一號) 改良蠶白 (荒木寄)

上田便り

鐘紡上田工場操業開始

鐘紡上田工場操業開始 鐘紡上田工場では豫定通り十二月一日から工場内燃糸部をトップに操業を開始した。現在の使用人員は二百名内外であるがステールファイバー紡績、機械、刺繍等が開始されるに伴ひ一千名の従業員が全部揃ふべく右従業員は先設地工場で養成したり或は募集に奔走してゐる。

珍らし運天儀寄附

憲氏は先般上田徴古館へ國友藤兵衛作の國寶級天體望遠鏡を寄附されたが十二月一日更に古代支那日本で天體運行の位置測定に使用された『運天儀』一基を市役所に持参徴古館へ寄附申込まれた。右運天儀は朱塗りの龍形の柱に天體天像等數個の環を支へてあり添書に依ると延保六年(二百六十年前)慧星を觀測した事が誌されてゐる。

熊谷飛行學校上田分校開校

熊谷飛行學校上田分校開校 熊谷飛行學校分校となつた上田飛行場は擴張宿舍其他の工事施設も全く完成し先月三十日には練習機九機が飛來十二月一日より猛練習が開始されたが、市民が爆音を聞くのも久し振りである。教官は主任荒時大尉、宮地中尉、助教官八名で空の若鷲四十名の基本操縦を訓練するものである向十七日には熊谷飛行學校校長江橋中將が視察した。

鐵工業組合創立

鐵工業組合創立 十二月七日附設立認可となつた上田鐵工業組合の創立總會は十五日市役所に開催理事長小島大治郎氏、副宮島定義氏、赤池三五郎氏以下の役員を選挙したが組合名を『上田鐵工業機械工業組合』に改稱廿三日迄に出資四千圓を取纏めて登記を済ませ明春早々活動を開始する事となつたが共同作業場建設、共同請負、軍需品下請、共同購入等が主なる事業で工業組合と共に共同施設に對しては四割の補助あり軍需品下請にも特約あり尙損失補償の資金融通を受ける

特典もあり今後の活躍が期待される。年末年始の臨時列車 新潟鐵道局では年末年始に左の如く臨時列車を運轉する事に決定し十二月七日發表した。

- △上野發後十時四十分—長野發前五時廿五分—直江津發前八時三十分(十二月廿四日より一月七日迄)
△直江津發後五時五十分—長野發後八時五十分—上野發前五時(十二月廿四日より一月七日迄)
△上野發後八時二十分—長野發前一時四十分—直江津發前三時三十分—金澤(十二月廿四日より一月四日迄)
△上野發後十一時廿五分—長野發前一時四十分—直江津發前九時三十分(十二月廿八日より一月一日迄)
△上野發後十一時五十分—長野發前八時三十分(十二月廿日より一月一日迄)
△上野發後十時十五分—長野發前五時十六分(十二月三十日より一月一日迄)
△長野發後一時三十分—上野發後六時三十分(一月三日より同九日迄)

諏訪部區の區劃整理

諏訪部區の區劃整理 上田市諏訪部區鐘紡工場西端に接する鐵道線路南方六万坪の區劃整理事業は百二十名の地主の承諾書が纏つたので市土木課では十二月八日地主會を開き縣稅設計圖を提出する事になつたが同地帯は大畑地帯で小川や土境を整理して都市計畫線に依る道路貫通を見る時は住宅地としても發展の可能性がある。尙上田市の都市計畫に基く區劃整理事業の申請は既に常田、南天神町裏二ヶ所よりなされ上田市街地は東西南に發展出来る譯である。

隣保館建設

隣保館建設 上田市方面事業助成會では十二月九日市役所で役員會を開催、市内諏訪形地籍に二百二十坪を用ひ木造スレート葺平屋建の隣保館を建設する事を決定、建設費八千圓の内長電其他寄附四千八百圓、市費補助七百圓、助成金支出五百圓、中央篤志寄附二千圓である。然して隣保館は社會館とも云ふべき施設で季節的托兒所たる明光保育園を廢止し同館内に新たに常設托兒所を開く外貧民救済

南京陷落祝賀提灯行列

南京陷落祝賀提灯行列 上田市の南京陷落提灯行列は十二月十一日夜六時半煙火を合圖に市内五箇所より出發總勢一万五千人各別々のコースを執り市内を練り歩き九時招魂社に於て万歳三唱散會した又十七日の晴れの南京入城式當日は午前十時より市内小學校、青年學校、實科女學校の生徒六千五百名の旗行列を行ひ招魂社に到り參拜万歳三唱散會した。

東信十三校の演習

東信十三校の演習 川東青年學校十三校六百餘名の野外聯合演習は上田諏訪谷中佐司令官として十二月十二日午前八時三十分より神科、上田、鹽尻一帯に展開され正午休養ラッパで食食をせから鹽尻小學校に於て閱兵、講評、分列式を行ひ午後二時終了した。

英字案内板を上田驛へ

英字案内板を上田驛へ 菅平スキー場への玄關口信越線の上田驛ではシーズン毎に殖える外人スキーヤーの爲めにホームに英文案内板を掲示した。

市十七組合、整理五三アル、改植三一五アル、小縣郡二四六組合、整理一一二アル、改植六六二四アルにて一アルにつき助成金整理一圓、改植一圓五十錢で合計金額一万一千五百七十三圓五十錢に達する。柴崎市助役の著作 上田市助役柴崎新一氏は小冊子『日本主義兵學家八木剛助先生』謄寫刷四十四頁を編著され知己へ配付したが短著よく上田藩の生んだ大兵學家の全貌を傳へてゐる。因に八木剛助先生は八木誠政氏(鐵三)の祖父に當る。小島鐵工所東京へ進出 上田市小島鐵工所では業務を擴張する爲め川口市飯塚地籍に敷地一千坪工費約五萬圓を以て同鐵工所東京鐵工所を建設中であるが仕事は同鐵工所の姉妹會社日本水道工業會社の製品と自立其他から注文される車工業方面のもので建設は本年一杯に終了し明春工場内部設備完了次第運轉を開始するが従業員は上小地方人五十名を採用すると云ふ。

願行寺本殿の新築 市内大門町の名刹願行寺では本堂が無いので今春新築を決定、三ヶ年計畫に依る寄附募集を始めたるが本殿の設計は大体瓦葺平屋千鳥破風入母屋作り、間口八間半、奥行七間、高さ四十六尺の堂々たる建築で附屬の向拜は唐破風作り、間口二間半、奥行一間四方である。尙本殿の大柱は尺丸、向拜は檜材を用ひる事になつてゐる。新築位置は現在の庫裡の南方空地で東向とし大門町道路に面してゐる門も矢張南方に移動して東向に直す事になつてゐる。總工費は二萬五千圓である。小蠶種製造業逐年大資本統制へ 本年度上小蠶種製造家三百三十八名中十万人以上生産者は次の十氏であるが逐年整理されつゝある上小蠶種界は小蠶種家が加速度的に減少減産を續けてゐる一面には十萬瓦以上生産者は増加し資本に依る蠶種界の統制合同化が示され大蠶種家の製造増加は年々二三割程度を示してゐる

上田蠶種會社六三九四瓦△上田和田源勝一六九七三瓦△同等原組一三九〇六瓦△同神科茅野慶次郎三六三三瓦△同香山一平一〇三二四瓦△川邊信濃蠶業社一〇〇五三九瓦△鹽尻藤本蠶業社一七二九瓦△同馬場蠶業三〇八三五瓦△同母袋忠右衛門二四四六九瓦△同清水太郎左衛門一三〇八四瓦△同塚田茂美一二二五五瓦△同中島精一六一二九瓦△同原理兵衛一〇五三五瓦△同工藤鉄太郎一〇二一八瓦△中鹽田若林祐作一〇二九六四瓦△長瀬小蠶業三五六二五瓦△縣松林政治一七九五六瓦△同矢島六左衛門一五一七三瓦 温電青木線丸子線廢止か 鐵道省では監督上の立場から上田温電青木、西丸子兩線の大改造を指示して来たが同省の指定通り改修するには十萬圓近くを要するので温電に於ては愈々明春より廢線する事になり交通は全部バスを以て之れに代へる方針であるらしいが兩線共開設以來十五年の歴史を有し地方産業交通上に寄與する處多かつた丈にその廢線に依つて被る地方民の打撃は相當に大きい。上田市の納入状況 昭和五年以降上田市の戸數割其他各種附加税を合した市稅納入状況は左の如く年々好成绩を辿つてゐる。(括弧内は滞納換額である) △五年二九三四四九圓〇六(一二七九一四四七) △六年二四〇六五七圓五三(一二四〇七四八五) △七年二四〇七九一圓四九(一二五五四四九四) △八年二四六一〇八四六四(一二五〇〇二〇〇) △九年二四二二二七二四(一二四四三三〇) △十年二四三三九七二五圓三六(一二二二八四八九) △十一年二四四〇〇五一圓三〇(一二三三三三〇〇) △十二年二四三三九七二四(一二二九一四四一) △計一九六七〇七圓二七(一一六八二二四八二) 飛行場道路及架橋明春着手 上田市中之條の千曲川渡船場を廢止しその上流約百メートルの地點に九千圓で架橋する起債及同橋を通過し中之條と諏訪部を繋ぐ飛行場道路新設費六千圓は十二月三日附認可となつたので愈々明春二月頃から工事に着手する事となつた。

母校ニユース

國民精神總動員週訓示 國民精神總動員週間の防火デー當日たる十二月一日は本校に於ては午前八時五十分より講堂に於て全校職員生徒集合校長先生より訓示があり引續き石倉先生から出火の際の電線に對する注意の語があり二時開目から授業を開始した。本日は本来ならば消火演習、避難演習をなすべきであるが少し前に消火演習を行ひ防空演習の時に避難演習を行つた故今回は訓示に止め省察したのである。

學生北島雄次郎君死去 絲二學生北島雄次郎君は長らく病氣中席中の處十二月五日午後五時死去されたとの通知があり七日の告別式には原田教授代表として参列した。此處に謹んで哀悼の意を表す。文部省督學官來校 文部省督學官龍山義亮氏は十二月六日來校、教授出席し國民精神總動員並に日支事變の學生に對する影響等に就き懇談した。

暖房入る 本年の寒氣は例年より激しい様であるが時局柄我慢をして遅らせ十二月六日より漸く暖房を通して。談話會例會 十二月十日午後四時より千曲會館樓上に於て談話會例會を開催したが談話者及題目は左の如くである。因に今回より會場に千曲會館を使用する事とした。

一、ステープル、フアイバー製造機械の機構的分類に就て 香山清和 南京陥落祝賀提灯行列に参加 十二月十一日午後六時三十分より市主催の南京陥落祝賀提灯行列が舉行され全市を五部隊に分ち本校は東部隊に加はつた。午後

五時半校長以下職員諸人學生一同母校校安殿前に集合最敬禮を行ひ東部隊の集合場所高等女學校へ行く。午後六時三十分出發水道町一丁目白銀町一日出町中常門下常門一丁目木町一丁目上常門一丁目新常門を経て招魂社に參拜萬歳三唱して九時散會した。

入學案

一、募集人員 養蠶科、製絲科、絹紡織科、通計約百名 出願期日 十一月十一日より三月十五日迄 試驗科目 無試驗檢定 一月十一日より三月十五日迄 試驗科目 算術、代數、平面幾何、英語(英文和譯) 試驗場所 上田(本校)、東京(文理科大學)、名古屋(愛知縣廳)、京都(高等工藝學校)、岡山(醫科大學)、福岡(九州帝大農學部)

二、入學案内書入用者は郵券三錢封入本校教務課宛申込次第送附す 製絲教養成科入學案内 募集人員 約十五名 出願資格 一、高等女學校卒業後一ヶ年以上製絲業に従事せる者 二、高等小學校卒業後一ヶ年以上製絲業に従事せる者 出願期日 一月十一日より三月十五日迄 試驗科目 算術、代數、平面幾何、國語(作文を含む) 試驗場所 上田(本校) 午後六時檢査、口頭試問) 入學志願者心得入用者は三錢切手封入本校教務課宛申込まれた

二、學期終了 二學期の授業は十二月十日で終了し二日休んで十八日より廿四日迄學期試験行はれ廿五日より明春十日迄冬季休暇に入る譯である。

三、友會雜誌第卅號發刊 友會雜誌第三十三號は國民精神總動員號の名を以て十二月廿四日愈々發刊される事となつた。

一、訓話 阪大理學部附設纖維科學研究所 小松忠一郎 生絲の色相に就て 山口定次郎 處理桑の諸性質に就て 菅生俊興 養蠶の關係 菅生俊興 本年度のノール賞に因つて 原田先生

校友會歌決定

兼ねて募集せる校友會歌は母校の職員卒業生及び北川冬彦氏に依頼選歌中の處左の如く推薦された。

一、淺間の煙たなびきて 千曲の水に流ふところ 聖なる鐘の高らかに 常田ヶ丘に響くとき 我等學校三百は 若き血潮に燃ゆるなり 未だの學窓を語りつゝ 勤儉尙武の旗の下 自治の手かたく組み交し 志一途の胸深く 師宗の教へ育みぬ 松尾城頭雲白く 榮枯の跡に踏踏みて 質實剛毅の膽を練り 難局打破の氣を養ひ 希望の空にうそぶけば 湧きたつ力覺ゆなり 双石古き校門に 三年の名残りしるしたる 我等またを勇ましく 世の荒波をおしわけて 御國の爲に捧げゆくと 誇りも高き技術の成果 都を遠く高陵の 月影清しその光り 向學の意氣身に熱く やがて雲霧功成れば 並び世に立つともがらの 榮ある行手照らすごと

一、朝陽に匂ふアルプスの 名も美しき信濃路の 心悅しき丘の上に 光り輝く我が母校 千曲の流れ永遠に 影を浮べてうつろはぬ 志操の泉若人の 心ゆかしき太郎山 春は古城の淡がすみ 眞田が夢の末とほく 秋は月澄む更科の 古き傳説を偲ぶかな 身は感激に打ちふるひ 黒き眸に青春の 影を惜しめて夜もすがら 文の林を辿りゆく 智恵の鏡に技々を

一、大なるかな 淺間山 乾坤とよむ 神祕の雄叫びを 身にしむ 健兒 こゝにあり 二、麗しきかな 菅平 若葉しげる 清和の高原を 野にひかる 健兒 こゝにあり 三、聖らげきかな 千曲川 千古のひびき 盡きせぬ努力の譜 胸にひた湧く

一、あゝ黎明の空の色 牧場の草はしづくして 類の高くたなびけば このみすべかる信濃路に 我は常田が花の下 唄ひ行けば胸熱く おぼるる月に花の香の 思は深きこの三年 思は深きこの三年 花紅にぬれ咲く 清くも映る城影に 今たすだく蟲の音に 秋のあはれの身にぞ泣む 樽の林に分け入れば 谷間の水の香も湧え 山に叫べば山深く 望みは高く燃ゆるかな 漢なす汗よ山行かば 見よ噴の雪原に 山の靈の身にしめて 男の子の意氣のいや高し 狂はば狂へ荒波よ 英雄の魂身に受けし 理想の光求めつゝ 天馬に空を駆け行かん この學び舎に集ひ来て 剛健の氣を培ひて 勵み來れる跡見れば 歴史輝く三十年 山紫に水清き この高原に身をきたへ 我が日の本の國民の 標となりつ進み來し 此の靈尊を驅はなむ

選歌感想

二、等選歌(加子三郎氏作) 一、大なるかな 淺間山 乾坤とよむ 神祕の雄叫びを 身にしむ 健兒 こゝにあり 二、麗しきかな 菅平 若葉しげる 清和の高原を 野にひかる 健兒 こゝにあり 三、聖らげきかな 千曲川 千古のひびき 盡きせぬ努力の譜 胸にひた湧く

一、あゝ黎明の空の色 牧場の草はしづくして 類の高くたなびけば このみすべかる信濃路に 我は常田が花の下 唄ひ行けば胸熱く おぼるる月に花の香の 思は深きこの三年 思は深きこの三年 花紅にぬれ咲く 清くも映る城影に 今たすだく蟲の音に 秋のあはれの身にぞ泣む 樽の林に分け入れば 谷間の水の香も湧え 山に叫べば山深く 望みは高く燃ゆるかな 漢なす汗よ山行かば 見よ噴の雪原に 山の靈の身にしめて 男の子の意氣のいや高し 狂はば狂へ荒波よ 英雄の魂身に受けし 理想の光求めつゝ 天馬に空を駆け行かん この學び舎に集ひ来て 剛健の氣を培ひて 勵み來れる跡見れば 歴史輝く三十年 山紫に水清き この高原に身をきたへ 我が日の本の國民の 標となりつ進み來し 此の靈尊を驅はなむ

一、朝陽に匂ふアルプスの 名も美しき信濃路の 心悅しき丘の上に 光り輝く我が母校 千曲の流れ永遠に 影を浮べてうつろはぬ 志操の泉若人の 心ゆかしき太郎山 春は古城の淡がすみ 眞田が夢の末とほく 秋は月澄む更科の 古き傳説を偲ぶかな 身は感激に打ちふるひ 黒き眸に青春の 影を惜しめて夜もすがら 文の林を辿りゆく 智恵の鏡に技々を

一、あゝ黎明の空の色 牧場の草はしづくして 類の高くたなびけば このみすべかる信濃路に 我は常田が花の下 唄ひ行けば胸熱く おぼるる月に花の香の 思は深きこの三年 思は深きこの三年 花紅にぬれ咲く 清くも映る城影に 今たすだく蟲の音に 秋のあはれの身にぞ泣む 樽の林に分け入れば 谷間の水の香も湧え 山に叫べば山深く 望みは高く燃ゆるかな 漢なす汗よ山行かば 見よ噴の雪原に 山の靈の身にしめて 男の子の意氣のいや高し 狂はば狂へ荒波よ 英雄の魂身に受けし 理想の光求めつゝ 天馬に空を駆け行かん この學び舎に集ひ来て 剛健の氣を培ひて 勵み來れる跡見れば 歴史輝く三十年 山紫に水清き この高原に身をきたへ 我が日の本の國民の 標となりつ進み來し 此の靈尊を驅はなむ

一、朝陽に匂ふアルプスの 名も美しき信濃路の 心悅しき丘の上に 光り輝く我が母校 千曲の流れ永遠に 影を浮べてうつろはぬ 志操の泉若人の 心ゆかしき太郎山 春は古城の淡がすみ 眞田が夢の末とほく 秋は月澄む更科の 古き傳説を偲ぶかな 身は感激に打ちふるひ 黒き眸に青春の 影を惜しめて夜もすがら 文の林を辿りゆく 智恵の鏡に技々を

二、等當選歌(土屋久雄氏作)

一、あゝ黎明の空の色 牧場の草はしづくして 類の高くたなびけば このみすべかる信濃路に 我は常田が花の下 唄ひ行けば胸熱く おぼるる月に花の香の 思は深きこの三年 思は深きこの三年 花紅にぬれ咲く 清くも映る城影に 今たすだく蟲の音に 秋のあはれの身にぞ泣む 樽の林に分け入れば 谷間の水の香も湧え 山に叫べば山深く 望みは高く燃ゆるかな 漢なす汗よ山行かば 見よ噴の雪原に 山の靈の身にしめて 男の子の意氣のいや高し 狂はば狂へ荒波よ 英雄の魂身に受けし 理想の光求めつゝ 天馬に空を駆け行かん この學び舎に集ひ来て 剛健の氣を培ひて 勵み來れる跡見れば 歴史輝く三十年 山紫に水清き この高原に身をきたへ 我が日の本の國民の 標となりつ進み來し 此の靈尊を驅はなむ

一、朝陽に匂ふアルプスの 名も美しき信濃路の 心悅しき丘の上に 光り輝く我が母校 千曲の流れ永遠に 影を浮べてうつろはぬ 志操の泉若人の 心ゆかしき太郎山 春は古城の淡がすみ 眞田が夢の末とほく 秋は月澄む更科の 古き傳説を偲ぶかな 身は感激に打ちふるひ 黒き眸に青春の 影を惜しめて夜もすがら 文の林を辿りゆく 智恵の鏡に技々を

一、あゝ黎明の空の色 牧場の草はしづくして 類の高くたなびけば このみすべかる信濃路に 我は常田が花の下 唄ひ行けば胸熱く おぼるる月に花の香の 思は深きこの三年 思は深きこの三年 花紅にぬれ咲く 清くも映る城影に 今たすだく蟲の音に 秋のあはれの身にぞ泣む 樽の林に分け入れば 谷間の水の香も湧え 山に叫べば山深く 望みは高く燃ゆるかな 漢なす汗よ山行かば 見よ噴の雪原に 山の靈の身にしめて 男の子の意氣のいや高し 狂はば狂へ荒波よ 英雄の魂身に受けし 理想の光求めつゝ 天馬に空を駆け行かん この學び舎に集ひ来て 剛健の氣を培ひて 勵み來れる跡見れば 歴史輝く三十年 山紫に水清き この高原に身をきたへ 我が日の本の國民の 標となりつ進み來し 此の靈尊を驅はなむ

一、朝陽に匂ふアルプスの 名も美しき信濃路の 心悅しき丘の上に 光り輝く我が母校 千曲の流れ永遠に 影を浮べてうつろはぬ 志操の泉若人の 心ゆかしき太郎山 春は古城の淡がすみ 眞田が夢の末とほく 秋は月澄む更科の 古き傳説を偲ぶかな 身は感激に打ちふるひ 黒き眸に青春の 影を惜しめて夜もすがら 文の林を辿りゆく 智恵の鏡に技々を

一、あゝ黎明の空の色 牧場の草はしづくして 類の高くたなびけば このみすべかる信濃路に 我は常田が花の下 唄ひ行けば胸熱く おぼるる月に花の香の 思は深きこの三年 思は深きこの三年 花紅にぬれ咲く 清くも映る城影に 今たすだく蟲の音に 秋のあはれの身にぞ泣む 樽の林に分け入れば 谷間の水の香も湧え 山に叫べば山深く 望みは高く燃ゆるかな 漢なす汗よ山行かば 見よ噴の雪原に 山の靈の身にしめて 男の子の意氣のいや高し 狂はば狂へ荒波よ 英雄の魂身に受けし 理想の光求めつゝ 天馬に空を駆け行かん この學び舎に集ひ来て 剛健の氣を培ひて 勵み來れる跡見れば 歴史輝く三十年 山紫に水清き この高原に身をきたへ 我が日の本の國民の 標となりつ進み來し 此の靈尊を驅はなむ



戰場便り

學生岡宮辰夫君

(蠶選三)より

諸兄御健勝ですか。過ぎし昔様の愉快な事を思ひ出すと何だか懐しくなる。あの〇〇驛で見送りを受けた時は誠に有難う御座いました。何時迄も忘れません。あの國旗も身体から離した事はありません。小生も早や塘沽に上陸以來豊台に下車してより北支事變勃發の蘆溝橋郎坊等を見てありし戦跡の悲惨を見て後より〇〇部隊として諸君の新聞紙上で御承知の如く保定、石家莊、順徳と二百里もの追撃戦闘を継続し時は敵前渡河、雷雨下の行軍、實に支那獨特の泥まみれにて彈丸少くして敵無数の死を見た様な面白き戦闘や土煙彈雨下の凄き戦闘等八回の敵火を交へた。小生も大根人參粟等實に好く食つた。誠に無事で凱旋されたら皆様と語りた様に感ずる。唯今の處は棉畑が續いて一望地平線だ。河北の北は一面の高き高粱で南は少く棉畑が多い夕陽の沈む時雀の飛ぶも何となく淋しく内地では多く見ぬ所だ。生臭き馬の死体も野戦を思はず。目下内地もトチカカ言葉があるでせう。支那軍は深い壕を作るに實に上手なものです。然し以前かららしく壕には青草が生へて居る。深きは四間以上もあるが。保定等はあの町の周圍に實に多くの壕を掘り堅固な陣だつたよ。中島健爾君の死も行軍中兄さんから聞いて小生も知つたのですが戦死したとの事で我事の様に思はず涙にむせんだ次第です。頭部彈貫らしいね。前面の敵状を見ようと一寸立つた時に狙撃されたらしい。諸兄等に呉々も中島の兄さんが宜敷く傳へてくれとの事です。誠に惜しい事をしました。さて唯今小生は体の調子は實に好いです。廿一日の朝五時頃磁縣西保障の高地で〇〇部隊の急を聞

き我部隊は此の援隊に急ぎ徹夜して各個壕を掘つて居た。然して曉、東の空の赤く焼け初頃であつた。敵火は凄く迫撃砲は激しく我軍に投下、手榴彈はすぐく敵四圍にして我れに近く五米も接近し實に今月初めての物すまじき白兵戦闘だつた。時に五時半頃だつた。初めて小生は左上腹部に負傷した事を知つた。然し後に下る事も出来ぬ。十時過ぎ迄戦闘は續いた。實に話にならぬ位でした。然し敵の死数は初めて多く出したとの話を後に聞き我ながら嬉しく感じた。而して唯今〇〇野戦病院に居りますが傷は心配する程度でなく間近に退院し又第一線に出られる様になりましたから御心配なく目下身体は元氣です。御安心下さい。何にしろ出發以來内地の手紙も見られず手紙も出せずの有様で學校は勿論各所に御無沙汰致して居ります故諸君何卒宜敷く御傳へ下さい。御願ひ申上ます。先は諸君御健勝で小生も益々奮闘する。誠に布團の上での筆にて亂筆で下手な字を益々亂筆にて失禮致します。卓球部の諸君にも宜敷く。(十月卅一日、養蠶三年一同宛)

學生鹿野陸二郎君

(絲一)より

燈火親しむべき秋到來貴君等一同元氣で勉學の事と思ふ。御蔭様にて小生相變らず元氣にて戦闘し居るから御安心下さい。十月十七日の運動會も面白く過した事です。大陸獨特の秋の夜風に身振ひしながら獨り立つ歩哨、澄み切つた月を眺むれば殺氣立つた心もいつしか利いて思ひは遠く故郷に走る。貴君等は今頃何をして居るだらうか。御存知でせう。保定の戦闘に〇〇部隊に配屬となつた中島君(養蠶三年)が悲壯な戦死をした事を。小生の中學時代の學友文に全く驚いた。十月一日石家莊に向ひ保定を出發した。見渡す限りの高粱畑と棉畑の中を一日八里の行軍、高粱畑の湿地の中、沼の中、或は裸で渡河、先行して工兵が作れ

る橋を渡る時などは全く頭が下る。高粱畑の果から支那大陸獨特の大きな眞赤な太陽を眺めつゝ、又日中泥と汗にまみれつゝ、或時は棉畑の草むらに鳴く憐れな蟲の音を聞きつゝ、道ならぬ道を進む皇軍の魂と續く大部隊を顧みる時今更乍ら日本軍の偉大さを知る。全く歌そのものである。

一、勝つて来るぞと勇ましく誓つて敵郷を出たらは手榴彈を手に死なれよか進軍ラッパ聴くたびに敵に浮ぶ旗の波  
二、土も草木も火と燃える果なき野踏み分けて進む日の丸鐵兜馬のたてがみながら明日の命を誰か知る  
毎日苦しい事ばかりだ。吾等は軍歌で慰めてゐる。

此の頃友軍の飛行機來らず敵機に悩まされた。仲々油断がならない。東の空で敵機目掛けて射つ高射砲の破裂の光景を目の邊りに見た。射撃用意彈丸こめした事も幾度かある。上空に敵機が來た時は實に氣味が悪い。十月八日愈々滹沱河を挟んで石家莊の攻撃になつた。右より十月九日〇〇部隊、中央より一日遅れて〇〇部隊、左より一日遅れて〇〇部隊の攻撃前進。言下作戦の下に此時こそ緊張した。彈丸の來る中で高粱畑で鐵舟に乗る演習迄した程だから。處がだ、野砲と迫撃砲の猛射を浴せると堅固な陣地もろくも破れ敵は總退却。此の時こそ助つた安心に渡河する事が出来た。渡つて見ると驚いた事は敵ながら天晴れな陣地、こゝで頑強に抵抗されたらと雖も思つたであらう。〇〇部隊の戦況が有利に展開して敵の後方に廻つた爲敵は苦しい立場で退却したのだ。〇〇部隊では〇〇位の犠牲者を豫想してゐたのが敵は一日行程の處を退却、吾等部隊は列車にて追撃せんとすの任務の下に十月十三日乗車した此處より〇〇部隊は太原へ。〇〇は上海

方面に向つたらしい。〇〇部隊は行軍に於て、〇〇部隊は自動車追撃、吾等は裝甲列車、裝甲自動車、工兵の修理材料列車、其の後三列車が平漢線をひた押しに追撃したのである。途中〇〇部隊と戦つた支那兵の折重つて倒れてゐる生々しい戦場を車中に見乍ら途中光線鏡の戦闘をなす。或る時は前の裝甲列車と敵の逃げる列車とすれすれに前進してゐると言ふ痛快な事もあつた。漳河の鐵橋が爆破されて居る爲め已むなく双廟に下車、愈々河北省より河南省へ。扱て西保障の戦闘を書かう。保障に居る〇〇部隊が敵二ヶ師に包圍さるの傳説の報告に俄かに緊張、明朝出發の豫定が其日十月二十日午後十時双廟出發、翌日午前三時漳河の敵前渡河、夜明けを待つて攻撃前進。西保障の村落は斷崖の上にある。後は山、地形の不利の上も無し。早馳前へて鐵道線路の土堤に張附いて間もなく敵の機關銃が後方二十米の處にパン／＼と砂煙を上げて落下した。彈着がよいぞ。後方から射つ〇〇砲があまり見事に敵中に破裂するので土堤から銃砲をもたげるとシュー／＼と彈丸が飛んで來る。敵がねらひ射をするらしい。稜線を逃げる敵に向つて射つ迫撃砲の彈が眞黒な煙を立て、落ちるのが手に取る様に見える。昨晩は敵襲三回か。白煙をかけ手榴彈支持つて突撃して來る。敵兵ながら勇敢だ。その日は晩迄銃聲がなり止まなかつた。友軍の戦死者は〇〇名程あつた。村の中から山にかけて生々しい敵の死体で一ぱい。こんな時友軍の飛行機が待つ時は來らず。又々敵機の襲來、漳河の渡河線と双廟の驛を爆破されてしまつた。後で友軍の飛行機が戦場を見てこんなに敵が死んでゐる戦闘を見た事がないと言つたさうだ。敵は全く輕装だ。足袋で外套を肩にかけた位だ。十月三十日初めて内地からの郵便物が届いた。豊樂鎮附近の村落で便りを貰つた。戦地で内地からの便り程嬉しいものはない。十一月三日から五日迄が彰

徳の戦闘だ。此時は全部集結したので空からは飛行機の爆撃、戦車は突撃する、野戦重砲は射つ、歩兵は突撃ラッパを吹いて突撃だ。〇〇部隊が正面から攻撃したのだがどうしても進まないのが富澤部隊長(元〇〇中學配屬將校)がラッパを吹かした。此戦闘は全く協力戦闘だ。又々道端、棉畑の中に敵の死体が足の踏み場もない程倒れて居る。驚いた事には敵が内地の學生の使ふ所謂廢銃だが三八式を持つてゐる事だ。可哀想な事には〇〇部隊で來て到着二日目で戦死したのである。此處で敵を日本刀で切るのを見たが全く大根を切ると同じだ。志賀先生の言つた通りだ。只今は彰徳から引返して磁縣に居る。顧みるにあの強行軍と食糧の缺乏よく續いたものだと思ふ。人の心も自ら殺伐となり内地では猫の子一つ殺せない者が直ちに鶏の首をひねつてしまふ。死体を見ても平氣である。生々しい戦場で鶏の丸焼に舌づみみ打つた事もある。一本の煙草を七人で喫んだ事もある。此の手紙で戴いた方の返事にかへます。誠に失禮ですけれども忙し中を暇を見て書きました。亂筆をお許し下さい。内地からの御便りを待つて居ます。では貴君等元氣で、さようなら。

竹内博雄氏より

(十一月十一日、製絲科學生一同宛)

時下向冬の候と相成り御尊堂益々御健勝の段奉賀存候。下つて私儀長らく御無沙汰申上失禮仕候。今度日支事變に際しては北支遠征召集動員を受け一時筆を止め勇躍壯途に上り申候。國家非常時の秋に於て皇軍の一軍人として國の爲め出征し得た事は軍人として此の上無き光榮名譽と存候。過日北支塘沽上陸以來早三旬も過ぎなんと致居候。其の間長らく御無沙汰致し候ひしが本日漸く故郷に初信を書き得る喜びに接し一筆申上げる次第に御座候。新聞或はニュース等にて御承知の如く我が皇軍は炎熱身をも焼くが如き

大陸の曠野、未知なる北支の空、悪水に...

阿形宗彦氏

(阿形講師令息)より

捧げ同時に意を強うして奮闘致し居る次...

清水洗氏より

(十二月五日、校長宛)

時下初冬の候益御清榮の段奉賀候。陳者...

手塚達郎氏より

(十二月八日、校長宛)

十月十九日發の手紙本日十一月九日職...

慰問袋に對する禮狀

橋本博夫人よし枝氏より

嚴寒の折りから益々御清榮の段衷心よ...

神崎閑一氏より

(十二月二日、校長宛)

天下非常の時益々御清榮の段奉賀候...

梅村義一氏より

(十二月三日、千曲會宛)

時下初冬の候内地も相當寒く相成りた...

るものと拜察仕り候。陳者小生儀全く御無沙汰のみ仕り洵に申譯無之候。諸先生には益々御壯健の御由承り大慶至極に存じ候。降而小生儀去る〇月末應召、八月中旬征途に就き、天津より戦線に参り候以來幸ひ休は至極壯健にて愉快に従軍致し居り候條他事乍ら御放念被下度候。小生從軍の經過並に現地の戦況等に就き御知らせ致度も軍命令に依り右報道は固く禁じられ居り候條何卒不惡御諒承被下度唯小生等只今或る特別任務を帯び〇兵としては比較的戦線に参り居り候。去る十七日突如出發命令を受け四日間に二十八里を行軍南下〇河北方一里半の地點小田舎の部落に参り居り夜三時頃出發して未明の裡に準備を爲し晝間攻撃し夜暗くなりて再び宿舎に歸還致し居り候。此の間敵砲彈旺んに頭上に炸裂久し振りに壯快なる對砲兵戰を演じ候。今晚又寒風を衝き〇河堤防迄敵攻撃の爲參るべく候。當地昨今は全く冬期の氣候にて朔北風砂を飛ばし寒氣ひししと身に沁む候と相成候。小生は第一〇隊長として服務致し居り候。如何なる困苦に遭遇するも將兵皆心を一にし働き居り候。内地出發の時跳る蹴るの徵發馬も今は全く主になつき眞に皇國の爲め働きて居候。小生も出征以來既に四ヶ月以上とも相成り候得共未だ何等の勳功もたて得ず候も上田魂は誓つて傷けざる所存に御座候。先般北陸路に御立寄の節福井縣原開花亭より御親墨頂き先生始め各位に御拜顔出來得た様に喜び懐しく拜見仕り候。尙先般は小生等出征者に對し御激勵の御書面賜り更に大きな慰問袋も被下右は昨日到着有難く拜領仕り候。戦地に於て小生等の欲する數々の心盡しの御品實に嬉しい頂戴仕り候。同窓各位の就後の熱誠に對しては何とも御禮の申様無之衷心より厚く御禮申上候。全國舉げての御後援に對しては小生等益々奮起奮闘致す可く覺悟致し居り候。大〇河の對岸大〇〇都市も小高い山頂より一連の許に見下され正

鷹野陸二郎君

(十二月三日 校長宛)

馬蹄一擧の距離にて残る問題は大〇河の渡河のみに御座候。先は出陣を控へ取急ぎ亂筆乍ら御禮禮券々御一報まで如斯に御座候。

田村亮氏より

(十二月五日 校長宛)

時下初冬の候校長先生を初め御一同陳には御壯健にてお暮しの御事と御推察申上ます。小生御蔭様にて大變元氣にて軍務に精勵して居りますから御放念下さい。現て今度は御鄭重なる慰問書並に慰問袋をお送り下さいまして御厚意の程感謝致します。思ひ起せば彼の暑い〇月の最中御熱誠溢れる御見送りを受けて以來既に足掛け五ヶ月、萬山紅葉の秋も過ぎうら寒い風の吹き荒ぶ冬期も訪れた故郷を想ひ浮べ其の後の學校の動靜はと考へて居ります。承れば校長先生を初めと共一致團結して統後の護りに御力を注がれて居る御様子誠に有難き事と御禮申上ます。吾が〇〇部隊の職開行動は既に日々の新聞にて御承知の御事と存じます。此の地に陸軍職開行動に移りて以來三百里健脚〇〇男兒の名に背かず涿州、保定の一番乗り續いて石家莊、氏元、順德、邯鄲、磁縣と河北省を平漢線に沿ひ追撃又追撃息つく間もなく省境を突破し十一月五日河南省重要都市彰德に入城唯今は邯鄲、磁縣、彰德の附近の殘敵掃蕩に鐵道警備に將又治安確立のため奮闘中でありませぬ。此間警備護國の人柱となれる戦友の屍を躍り越へ進撃する時の氣持、又喰ふに食なく支那民の粟を喰ひ又ある時は畑の芋を喰ひ茄子を喰ひ乍ら泥濘馬腹を没する沼澤に夜明けの星の消えぬ間に寒さに震へ乍ら敵前渡河に到底言ひ盡す事の出来なない苦しい進撃でした。過日を顧みれば懐しい想ひ出となり貴き體験と生れ更りに誠に微力ながら大日本帝國に盡す事の出来る光榮を心から喜んで居ります。先日は初雪が降り北支にも愈々寒い冬期が訪れて來ました。皆々様

中澤嘉人氏

(十二月六日 校長宛)

の御厚意に背かぬ様益々緊張して軍務に邁進する覚悟であります。向寒の折校長先生を初め御一同様の御健勝を北支の曠野よりお祈り申上ます。先は御禮券々近況お知らせまで。(十二月五日 校長宛)

荻原幸胤氏より

(十二月八日 校長宛)

時下恒寒の初益々御清榮之段奉賀候。陳者其の後永らく御無沙汰仕り失禮之段何卒御海容被下度候。御蔭様にて其の後頑健にて軍務に従事致し居り候間乍ら御放念下され度候、さて先日(十二月五日)は御丁寧なる御慰問の御手紙に預り且つ近く慰問品まで御惠送下さるとの事唯感激の外無之厚く御禮申上候。小生等は先月初旬磁縣(平漢鐵道沿線)より分進し第二十九軍の根城たりし宋哲元策戰の據點大名縣城を陥れ先月十二日入城し現在に至り候。入城當時は吾が軍の砲撃及爆撃により又支那兵の掠奪により慘狀を呈し居り住民も避難し去りて治安の恢復は前途遙遠と察し居り候ひしと宜撫班の活動宜しきを得て治安維持會も生れ驚く可き進歩を來し殆んど城内住民の三分の二は歸來仕候。今後如何に進撃するやは未だ不明に候も恐らく〇〇岸迄出て一段落と察せられ候。内地より送付の郵便物も連絡機關比較的圓滑に運行せざる爲め八月、九月頃出たものが漸く昨今到着するものもあり或は又十一月廿日頃の新報の到着したるものも有之候。當地愈々寒冷に向ひ昨午など相當に身にしみる寒さに候ひき。されど御蔭様を以て頗る元氣にて生活致し居り候間乍ら御放念被下度候。先は右不取敢御禮券々近況御報申上候。末筆乍ら諸先生皆様に宜しく御禮申上候。

寒向の候と相成り校長閣下には益々御健勝の御様子なによりお喜び申上ます。支那塘沽上陸以來毎日〇〇〇追撃行軍にて寸暇とてなく長く御無音に打過ぎ誠に申譯も有りませぬ。御許し下さい。昨日は御丁寧なる御獎勵の御手紙を戴き有難く厚く御禮申上ます。其れに又本日御丁寧なる慰問品を戴きなんと御禮の申し様もなく只々感謝して居ります。小生お蔭様を持ちまして元氣で上陸以來大石橋、涿州の戦開を初めとして貴村、保定、石家莊と相次ぎて堅陣を落し石家莊から列車追撃にて順徳を落し磁縣を落し河北省と河南省の境なる彰河迄列車にて追ひました。十月二十日の夜二時頃敵前に渡河致し其の朝から河南省に入り西保障の戦開を致し幾多故郷の戦友をなくしました。蠶三の岡宮君も此の時左腕を負傷致しました。明治節は河南の戦場に於て拜賀式を致し此の佳節を期して彰德攻撃に移りました。明けて四日の正午頃完全に彰德を陥れました。此の地の敵は童子軍が多く累々たる敵死體の中には十六七才の少年が多く居りました。多くは中學生にて徹底的に抗日教育を受けた者だと隊長殿が言はれましたが仲々勇敢に抵抗致しました。上田市の砥石新次郎と言ふ人も此の戦開に戦死されました。小生幸に微傷だに負はず元氣で居ります。其後後方邯鄲に於て附近の殘敵を掃蕩して居ります。寒さは食糧缺乏の徴發兵は段々匪賊化して行きます。岡宮君も入院一ヶ月と今は元氣で奮闘して居ります。紿一年の鷹野君は彰德に居ります。北支方面は黄河を前にして正月を迎へるかも知れません。行軍に戦開と随分苦しみ事も有りましたがいつも皇軍の一員とし尊き使命を考へると言ひ知れぬ精神力が湧き今迄元氣で活動して参りました。亡き戦友の仇を報すべく又御奮勵の御言葉にお答へ出來るよう専心努力致します。日増に寒氣加はる折校長閣下の益々御健勝の程を祈ります。先づは御禮券々近況迄。

橋本博氏より

(十二月九日 校長宛)

歳暮の初り益々御多忙の事と御推察申上候。陳者過日は御丁寧なる御慰問を被下候に厚く御禮申上候。御蔭様にて無事奮闘致し居り候間御安心被下度候。敵軍は上海事變以後の長年月と莫大なる巨費を投じて作りし陣地に依り且督隊の攻撃に依り頑強に抵抗致候。然るに大場鎮陥落以後は蘇州河の戦も湖東の會戦に於ても皇軍は破竹の勢にて追撃し支那最後の陣地と期待せし江陰、無錫の線も蘇州河の如く破り十二月十日午後四時四十分南京城門の一角を陥落し十三日午前九時南京も全く陥落し十五日入城の豫定と追撃致し候。回顧せば八月吳淞鎮に敵前上陸以來數ヶ月にして敵の首都を陥落致させ候は世界戦史に第三回目と記憶致し候。各所に於ける戦開に於て敵の遺棄死體の累々たるは實に戦開の猛烈なりしを證明致し候。其の間各所の戦開護衛に於ても何等な事無きは先生並に同窓各位の御期待に添えざらず残念に存じ候間今後共に一層の御奮勵を切望致し候。右御禮まで如斯に御座候。

轉任挨拶

(十二月十三日 校長宛)

拜啓、時下寒氣相加り候處各位愈々御清適の段奉賀候。陳者小生新滬縣職業務取締所小出支所在勤中は格別なる懇情を蒙り難有奉深謝候。今般職業務を被命左記に任じ在る事に相成候處益々奮勉に専ら職務に精勵致す決意に有之候條今後公私共一層の御指導鞭撻を賜り度伏して奉懇願候。乍ら儀上を以て御挨拶迄申上候。敬具

昭和十二年十二月  
新滬縣新發田町  
北滬原郡養蠶業組合  
登坂 忠 吉  
千曲會員各位



會員動靜 (十二月廿四日現在)

石川博見(舊職) (勤)滿洲國新京、新東洋農林技術員養成所  
酒井末吉(勤) (勤)飯田市大字上飯田二六六(訂正)  
登坂忠吉(勤) (勤)新潟縣新發田町、北蒲原郡養蠶組合  
可兒良夫(勤) (勤)東京市京橋區西七ノ六、株式會社藤田組東京出張所  
岸田繁雄(勤) (勤)朝鮮全羅南道、海南公立農業實修學校(住)全上校長官  
柿田實作(勤) (勤)愛知縣北設樂郡田口町各種團體事務所內、北設樂郡養蠶組合(住)田口町大字田口字井戸八六  
倉元隆太(勤) (勤)沼津市蛇松、那志製絲蠶事所沼津支所(住)沼津市天王小路一三六  
小林修(勤) (改姓)高木ト改ム  
鈴木孫市(勤) (勤)ナシ(住)愛知縣額田郡幸田村菱池寺西七九  
吉開亮一(勤) (勤)東京市麹町區丸ノ内、濱野商事株式會社(住)橫濱市神栗町忠士(勤) (勤)廣島縣豊田郡本郷町、廣島縣立本郷農學校(訂正)  
栗栖忠士(勤) (勤)廣島縣豊田郡本郷町、廣島縣立本郷農學校(訂正)  
細田親二(勤) (勤)愛知縣經濟部蠶絲課(住)名古屋市中區南邊町三ノ一〇  
西山德治(勤) (勤)福井縣丹生郡織田村、福井縣蠶絲販賣組合聯合會(住)織田村  
滿澤佐俊(勤) (改姓)河合ト改ム(勤)大分市豊河原、日本人造羊毛株式會社(住)別府市港町三九三、電話四四四  
濱香三(勤) (勤)滿洲國新京、新東洋農林技術員養成所  
飯田喜雄(勤) (勤)昭和十二年十二月十九日死亡  
野尻巴(勤) (勤)京都府加佐郡舞鶴町大字喜多字新宮、日出紡織舞鶴第一工場(住)舞鶴町郡是通リ  
北野三郎(勤) (勤)兵隊)朝鮮咸鏡北道羅南、山砲兵第二十五聯隊第十一中隊  
北澤茂樹(勤) (勤)第一班)大連市萬浦町二四ノ二、藤本ビル八號  
宮下圓(勤) (勤)ナシ(住)大連市萬浦町二四ノ二、藤本ビル八號

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

針塚長太郎

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

井上柳梧

新春を迎へ

皇軍の戦勝を祝す

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

和田仙太郎

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

松岡重三郎

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

小泉所

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

小林清丸

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

志田敬夫

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

依田誠

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

森健二

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

依田啓藏

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

都筑貞吉

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

和田主計

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

清水運策

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

春原良太郎

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

田玉龜太郎

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

細谷金次郎

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

北村俊一

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

宮本英雄

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

宮内智

新春を迎へ

皇軍の戦勝を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

久保藤一

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

上田蠶絲専門學校

神津永夫

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

笠原組上田工場

笠原正巳

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

笠原組上田工場

笠原四郎

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

下伊那郡那珂村

皆川二一郎

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

更級郡衛之井町

依田寛之介

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

新潟縣中蒲原郡五泉町

二宮九一二

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る

昭和十三年元旦

北佐久郡小諸町

稻田實

寒中御見舞

本年初頭非常時局に際會候間年賀  
缺禮致し候に付き右に換へ申述候  
昭和十三年一月  
愛知縣南設樂郡新城町八幡  
一五ノ九

鈴木康之

謹賀新年

併祈 國威宣揚  
皇軍武運長久  
昭和十三年元旦  
愛知縣南設樂郡農學校

工藤一二三

謹賀新年

謝平素之御無音  
併祈諸賢之御多幸  
戊寅元旦  
沼津市高島町  
昭榮製絲沼津工場

横山英一  
鈴木武夫

謹賀新年

昭和十三年一月一日  
勤務先 石川縣經濟部農林課  
自宅 金澤市仙一人町一ノ三

菅原勇治

謹賀新年

昭和十三年一月一日  
勤務先 石川縣經濟部農林課  
自宅 金澤市備中町五〇ノ二

前田龜雄

謹賀新年

昭和十三年正月元旦  
勤務先 石川縣經濟部農林課  
自宅 金澤市早道町一五

石原石司

謹賀新年

昭和十三年一月一日  
勤務先 石川縣經濟部農林課  
自宅 金澤市早道町二六越田方

北澤延榮

謹賀新年

昭和十三年一月一日

北陸千曲會

會長 菅原勇治  
外會員一同

謹賀新年

昭和十三年元旦

勤先 昭榮製絲株式會社小山工場  
自宅 栃木市富士見町一七七一

篠原善次  
山本賢市

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る  
昭和十三年元旦  
三重縣鈴鹿郡龜山町  
龜山製絲株式會社

朝長勝治

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る  
昭和十三年元旦  
三重縣鈴鹿郡龜山町  
龜山製絲株式會社

佐藤國一

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る  
昭和十三年元旦  
上田蠶絲專門學校

松村季美

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る  
昭和十三年元旦  
上田蠶絲專門學校

倉澤美徳

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る  
昭和十三年元旦  
上田蠶絲專門學校

須田圭二

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る  
昭和十三年元旦  
上田蠶絲專門學校

小見益男

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る  
昭和十三年元旦  
上田蠶絲專門學校

山口定次郎

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る  
昭和十三年元旦  
上田蠶絲專門學校

金澤勇

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る  
昭和十三年元旦  
上田蠶絲專門學校

宮坂收

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る  
昭和十三年元旦  
上田蠶絲專門學校

小林敏

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る  
昭和十三年元旦  
上田蠶絲專門學校

鈴木俊夫

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る  
昭和十三年元旦  
上田蠶絲專門學校

武井仙太郎

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る  
昭和十三年元旦  
上田蠶絲專門學校

原利夫

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る  
昭和十三年元旦  
上田蠶絲專門學校

小木曾眞佐雄

國民精神總動員の新年を迎へ

皇國の發展を祈る  
昭和十三年元旦  
上田蠶絲專門學校

萩原清治

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る  
昭和十三年元旦  
上田蠶絲專門學校

古平庄衛

謹賀新年

昭和十三年元旦  
上田蠶絲專門學校

征矢克郎

謹賀新年

昭和十三年元旦  
上田蠶絲專門學校

副田好美

新春を迎へ

應召將士の武運長久を祈る  
昭和十三年元旦  
上田蠶絲專門學校

宮下丈夫

編輯室より

△舊年中は種々御援助御引立を忝うし誠に有難う御座いました。我等は年の改ま

謹賀新年

昭和十三年度蠶種案内

△本年の年始廣告は減少しはせぬかと實は心配してゐました。然るに會員諸氏の  
本紙廣告の意義の御理解と御高庇に依り  
昨春にも増して申込のあつた事を喜ばま  
す。紙上を通じて厚く御禮申上げる次第  
であります。

千曲時報編輯部  
香山 清和  
鷹野 誠一  
山崎 啓録

○交雜種  
× 龍華 仙江  
× 國蠶支一九七號  
× 國蠶支一〇七號  
× 國蠶支一〇七號  
× 國蠶支一〇七號  
× 國蠶支一〇七號

○原蠶種  
國蠶支一八號(本年度配布優良品)  
分離白一號(春期五粒定粒用)  
國蠶支一〇六號(春期五粒定粒用)  
其他一化二化共特撰品あり

優良品種、適地分場、設備完全

廣島縣御調郡奥村綾目公栄

蠶種業 小川 保

電話 市村局一四六番  
振替(廣島)二四六番  
(大阪)〇七三番  
電報は市村局別便配達料不要